

Petit Salon du Kansai Vol. 5

第5回

プチ・サロン・デュ・カンサイ

Voici! Écoutez!
Ces quatre mains
évolutives!:
4本の手が魅せる!
奏でる! 進化系ピアノ連弾

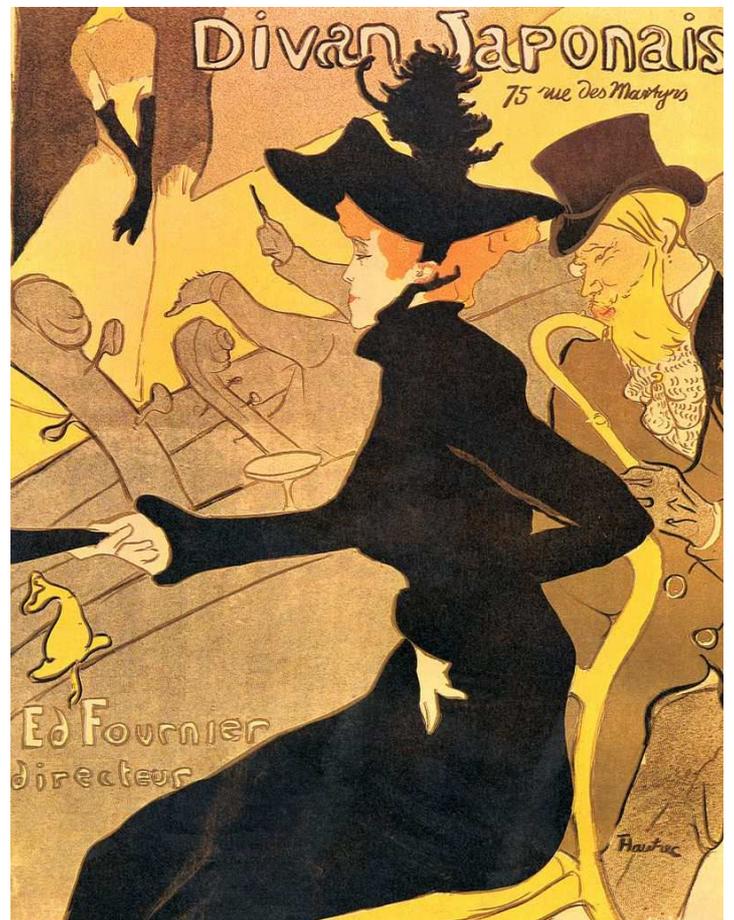
とき：2016年7月3日(日)
PM2:00~4:00
(開場 PM1:00)

ところ：関西ピアノ専門音楽学校内
ショパン・ホール

会費：1名 前売¥1,500
(ワイン・ドリンク・菓子等 込)
当日¥1,800
(ワイン・ドリンク・菓子等 込)

主催：関西ピアノ専門音楽学校

菓子：パティスリー・ピュール・ド・ソソギ





◆伊賀あゆみ & 山口雅敏 ピアノデュオ

超絶技巧を駆使した演奏と、複雑な手の交差、アクロバットな体の動きを用いた見た目にも楽しい連弾作品や、世界(日本)初演となる珍しい作品の発掘、山口の採譜による V.ホロヴィッツの編曲を華麗にリメイクした作品などのオリジナル編曲を中心に演奏し、そのスタイルは“進化系”デュオと評される。これまでに東日本大震災による被災地での復興支援コンサート、グレインジャー音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 2012・エリアコンサート、紀尾井ホールでのスルタノフ記念コンサートなどに出演し、東京、大阪、兵庫、熊本、福岡、鹿児島、宮城、北海道でコンサートを行っている。また、文化庁の派遣による学校クラスコンサートでアウトリーチも行っている。2013 年に「4Hands EVOLUTION 進化系ピアノ連弾」(発売元: NAXOS JAPAN)、2014 年に「Homage to HOROWITZ on 4 Hands」(発売元: 日本コロムビア)の 2 枚の CD をこれまでにリリース。ほとんどの収録曲が世界または日本初録音となった。イタリア人作曲家ロベルト・ピアナ(Roberto Piana)氏より、『印象的な踊り第2番「シンデレラ」』の作品献呈を受け世界初演を行う。「本当に役立つ! ピアノ練習法 74」「本当に役立つ! ピアノ練習法 74 まだまだ知りたい! (リットーミュージック)」書籍の執筆を担当。巨大地下空間(大谷採石場跡)にて撮影したミュージック映像も YouTube に公開し、視覚的にも楽しめる新しい連弾の世界を提唱している。

公式サイト: <http://www.ayumi-masatoshi.com>

YouTube: <http://www.youtube.com/user/ayumasaduo>

Facebook: <https://www.facebook.com/ayumasaduo>

◆伊賀あゆみ

福岡県出身。東京音楽大学卒業、同大学院伴奏研究領域を首席で修了。在学中、特待生奨学金を得る。大学院在学中、奨学金を受けイギリス王立音楽院に短期留学。全日本学生音楽コンクール高校の部第 2 位。ピティナ・ピアノコンペティション G 級(95 年)と特級(98 年)で金賞受賞。2000 年の CD デビューを機に、全国でコンサート活動を行う。ソロ活動に加え、アンサンブルピアニストとしてもコンサートやレコーディングを数多く行う。NHK テレビ「名曲アルバム」でヴァイオリニストのチェボタリョワ・アナスタシア氏(チャイコフスキーコンクール覇者)と共演。以後、東京・大阪・静岡でも共演を重ねた。フルーティスト中野真理氏の CD「AMORE」ではピアノ伴奏を担当。「ピアノカフェ」「ファイナル・ファンタジー11」「ディズニープリンセス」「ヴァイオリンの調べ」「フルートの調べ」など様々なジャンルのレコーディング CD は 500 曲以上にのぼる。雑誌「ピアノスタイル」の CD 演奏には創刊号から10年間に渡り携わり、コラム執筆も担当した。最近では新日本フィルハーモニー、丸ビルオーケストラと共演。東京丸ビル・新丸ビルでは、2006~2011 年までコンサートのコーディネーターも務め、定期的にコンサートを企画・出演した。小学校コンサートにも力を入れ、ピティナ、文化庁による芸術家派遣等でこれまでに東京・福岡を中心に 110 校以上で開催中。社会保険協会主催「えびす大学」で“感じる力で人生を豊かに! ~ピアノの魅力を通じて~”、小山台教育財団公開文化講座で“音色とは? ~音を見る力を磨こう~”などのセミナーも行う。現在、東京音楽大学非常勤講師としてソロ・室内楽の後進指導にもあたっている。公式ブログ: <http://igaayumi.blog28.fc2.com>

◆山口雅敏

兵庫県出身。兵庫県立西宮高校音楽科を経て東京音楽大学卒業。同大学研究生修了。フランス国立ヴァルダブレイ音楽院の最高過程を金賞を得て卒業。また同大学院を最優秀で修了。エコール・ノルマル音楽院や、ベルギー在住のピアニスト、アラン・ヴァイス氏のもとでも研鑽を積む。フランスでの第 6 回メドックアキテーヌ・ピアノコンクール第 3 位。日本音楽指導者協会第 9 回ピアノコンクール全国大会第 1 位最優秀賞。コンセルヴィーヴン新人オーディション優秀賞で合格。東京と大阪でソロリサイタルを開催。東京丸ビルコンサートや様々なコンサートに出演。演奏、編曲活動を行なう中、後進の指導にも積極的にあたっている。ヤマハ振興財団主催によるセミナーでは、「ピアノ編曲」をテーマに開催。未出版である V.ホロヴィッツの編曲の採譜を行い、江口玲氏をはじめ世界中のピアニストによって演奏・録音されている。また、V.ホロヴィッツの編曲をピアノ連弾のために再編曲し演奏・録音している。論文には「ラフマニノフのピアノソナタ第 2 番 変ロ短調 作品 36 における原典版(1913 年)と改訂版(1931 年)との比較、及びホロヴィッツ版の作成と考察」、「リストからホロヴィッツまでの“ピアノ編曲”におけるピアノ技法の進化と、演奏効果についての考察」、「ピアノ連弾の効果的な導入法と演奏法-ドイツからフランスに受け継がれた”5つの音による”連弾作品を使って-」、「ピアノ演奏技巧と脳機能を発達させる対称的練習法」などが刊行されている。現在、神戸女子大学、大阪総合保育大学非常勤講師。

ブログ: <http://masaplaypiano.blog122.fc2.com/>



—プログラム—

ハチャトゥリアン(G.アンダーソン編曲): 剣の舞

ブラームス: ハンガリー舞曲第5番

スーザ(ホロヴィッツ=山口 & 伊賀編曲): 星条旗よ永遠なれ

ゴメス(山口編曲): アヴェ・マリア

ファリャ(山口 & 伊賀編曲): 火祭りの踊り

メンデルスゾーン(ホロヴィッツ=山口編曲): 結婚行進曲

《 休憩 》

サン=サーンス(伊賀編曲): 白鳥

サン=サーンス(ホロヴィッツ=山口編曲): 死の舞踏

ベートーヴェン(ラヴィーナ編曲): 交響曲第9番より 第4楽章「歓喜の歌」



曲目解説（山口雅敏 伊賀あゆみ）

◆ハチャトゥリアン(G.アンダーソン編曲): 剣の舞

ロシアの作曲家、ハチャトゥリアン(1903-1978) のバレエ音楽『ガイヌ』の最終幕で用いられる作品。この曲は、クルド人が剣を持って踊る戦いの踊りを表している。民族性を前面に打ち出した激しいリズムは、聴き手に興奮を誘う。今話題になっているアメリカのピアノデュオ Anderson&Roe のグレッグ・アンダーソンによる連弾アレンジ(2006年)は、視覚的にもエキサイトする2人の手の動きを楽しませてくれる。

◆ブラームス: ハンガリー舞曲第5番

ブラームス(1833-1897)の「ハンガリー舞曲集」は全部で21曲が4集にまとめられており、これは元々ピアノ4手連弾として作曲された。第1、2集の10曲が、1869年に出版されると、ジプシー音楽独特の精彩あふれるリズムや色彩感によってたちまち大好評となり、1880年に第3、4集が刊行された。ブラームス自身がその中から何曲かをオーケストラ用にも編曲している。この第5番は、第1番と並んでよく演奏される曲で、短調で作られているが、華やかで沸き立つようなリズムを持つ曲となっている。その中に、そこはかとない哀愁を漂わせているところが、ブラームスの職人的手腕といえるであろう。

◆スーザ(ホロヴィッツ=山口 & 伊賀 編曲): 星条旗よ永遠なれ

アメリカのマーチ王、スーザの代表的な「星条旗よ永遠なれ」は、日本でも運動会の入場行進などにも使われ親しまれている。ホロヴィッツ(1903-1989)はこの行進曲に最重量級のピアノソロ編曲を施し、最も演奏困難な小品の一つと評された。彼の天才的演奏技巧を誇示する目的としては、最も完成度の高い編曲である。1944年にアメリカ国籍を取得したホロヴィッツは、第二次世界大戦の終結の祝福と、ロシア移民のピアニストを暖かく受け入れてくれたアメリカに対して敬礼の意味を込め編曲したのだった。楽譜が残されていないため、ホロヴィッツの録音から山口が採譜し、さらに2人で音を加え”進化系”ピアノ連弾を目指した。

◆ゴメス(山口編): アヴェ・マリア

名ソプラノ歌手エリーナ・ガランガが、2007年ウィーンでのクリスマスコンサートで歌い話題を呼んだ曲です。演奏映像がYouTubeで公開されると楽譜を求める多くの声が寄せられた。ウィリアム・ゴメス(1939-2000)は、メキシコのギターリストで「禁じられた遊び」などのギター名曲集の録音がある。アヴェ・マリアは数々の作曲家が残しているが、ゴメスの同曲は、情熱と心にしみる優美さが特徴。楽譜は、未出版のため、ガランカの演奏映像から採譜し、ピアノ連弾に編曲した。ピアノ・デュエットで歌う「アヴェ・マリア」である。

◆ファリャ(山口編曲): 火祭りの踊り～恋は魔術師より～

スペインの作曲家ファリャ(1876-1946)の代表作「火祭りの踊り」は、オーケストラで演奏されるバレエ音楽『恋は魔術師』の一曲。この曲は火を焚いて踊る悪魔払いの儀式で、最初のトリルは揺れる炎を表現し、ジプシーたちの歌う悪魔払いの歌はアラブの香りに満ち、靴音やギター打ち鳴らすリズムが、熱狂的に曲を盛り上げる。この曲のピアノ編曲を得意とし手を高々と挙げ演奏した、アルトゥール・ルービンシュタインへの敬愛を込め連弾編曲した。

◆メンデルスゾーン(ホロヴィッツ=山口編曲):結婚行進曲の主題による変奏曲

結婚式でお馴染みの行進曲。この作品はシェイクスピアの「真夏の夜の夢」のための付随音楽としてメンデルスゾーン(ドイツ1809-1847)が作曲した管弦楽曲の一曲です。世紀の大ピアニスト、ヴラディミール・ホロヴィッツ(1903-1989)は、リストのピアノ独奏用編曲をもとに、超絶技巧を盛り込んだ「結婚行進曲」を仕立てた。この豪華絢爛なホロヴィッツ版を連弾編曲するにあたり、さらに音を付け加え、4本の手や腕の動きで、結婚式を演出できるよう目指した。ホロヴィッツは、私たちが最も敬愛するピアニストである。

◆サン＝サーンス(G.アンダーソン / 伊賀あゆみ 編曲):白鳥

「動物の謝肉祭」は様々な動物が登場するオーケストラ作品だが、「白鳥」はチェロの独奏と2台のピアノで演奏される。本日は原曲にはないたくさんの装飾が散りばめられたグレッグ・アンダーソンによる2台ピアノ編曲を、更に連弾に編曲したものを演奏する。

◆サン＝サーンス(リスト / ホロヴィッツ / 山口雅敏 編曲):死の舞踏

サン＝サーンスが作曲した4つの交響詩のうちの1つ。フランスの詩人アンリ・カザリスの奇怪で幻想的な詩をもとに1874年に作曲された。若きホロヴィッツは、リストによるこの作品のピアノ独奏編曲をお気に入りのレパートリーにし、1941年にはそれを元に更に手を加え、より名人芸的な作風に仕立て演奏した。この豪華絢爛なホロヴィッツ編曲を2人で弾いてみたいと、連弾のために再編曲した。ホロヴィッツ風のパッセージをさらに付け加え、低音に厚みを増し、よりオーケストラの響きを目指した進化系連弾でのリメイクである。

◆ベートーヴェン(ラヴィーナ編曲):交響曲第9番より 第4楽章「歓喜の歌」

ベートーヴェンは若い頃から散歩好きであった。耳の障害や、不滅の恋人との別れの後では、自然の中にいることが何よりもの慰めになったのではないだろうか。彼が9番目の交響曲を書こうとした時、もはや従来のスタイルには収まらなくなり、合唱付きの「交響曲第9番作品125」が生まれたのである。第4楽章で歌われるベートーヴェンが感銘を受けたシラーの詩「歓喜に寄す」では、自由と平等、人類、自然への愛が高らかに歌われているが、不滅の恋人への想いも見えてくれる。(詩に登場する「天使」や「娘」という言葉は、「不滅の恋人」と重ねているのではないか。「不滅の恋人への手紙」では、彼女を「天使」とも呼んでいる。)また、ベートーヴェンはシラーの詩から抜粋し順番を入れ替えることで、単なる詩の引用でなく自身の言葉にしていった。

本来は、オーケストラと合唱による100人ほどの大編成で演奏される曲だが、4本の手で演奏可能にしたのが、フランスの作曲家アンリ・ラヴィーナである。ショパンと同時期に活躍したラヴィーナは「第9」をピアノ連弾に編曲し、楽譜は1875年に出版された。しかし、その後すぐ絶版となり、現在では幻の楽譜となっている。録音も存在しない大変珍しい楽譜であるが、運よく私たちの手に入ったということに運命的なものを感じる。

本日は、第4楽章の208小節目から演奏する。ベートーヴェン自身の言葉による有名なバリトン独唱「おお、友よ、これらの調べではない！我々はさらに心地よく、喜びあふれる歌を歌おうじゃないか」に続いてシラーの詩を歌いあげて合唱を導入する。

※「不滅の恋人への手紙」とは、ベートーヴェンの死の翌日、秘密の場所から発見された名宛人不明の3通の恋文のことである。彼が「不滅の恋人」と呼び、永遠の愛を誓った女性が誰であるか、世界のベートーヴェン研究者が200年もの間、究明中であるが、青木やよひ女史が提唱するアントーニア・ブレンターノ説が、最有力説となっている。